あゆみ通信

VOL.137

あゆみの会(真宗大谷派大阪教区第2組両朋の会権進員事務協議会)会長浪花博広報本持喜康

化の願 七立ち返る



(前略) 顧みますと、人類はこ れまでも原因不明の「はやり やまい(流行病)」に苦しみ、 不安を抱えながらも、現実に 真向かい、それを乗り越えて まいりました。今第一に心す べきことは、思いもよらず発 病してしまった方々とご家族 を孤立させないことです。そ れらの方々を排除する風潮が 広まっていますが、このよう な時であるからこそ「共に悩 み、共に苦しむ」という仏の 智慧に学ぶ姿勢が求められて います。ウイルスは排除して も、人間を排除しないという

意志が重要です。 誰もが、自分の 周りに災いが降 りかからないも うにと願うもの です。しかし、 世界的という状



況は、世にあるもの誰一人として身の安全が保障されないという現実を突きつけています。だからこそ私たちは、科学的な正しい情報を共通のの「孤立と排除」を避けるのない。大切を持ちる想像力を持たなければなりません。人間とはての正しい思惟が求められます。

先人は、老病死を孤独な闘い の路に終わらせず、共に生き る人を見いだす念仏の僧伽を 示してくださいました。現在、 全国の教区・組・寺院・教会

で、法要・法座の延期・休止 が余儀なくされています。こ のような状況を閉塞感でとら えるのではなく、これまでの 自分の在り方を立ち止まって 振り返る時とすることが重要 です。行動を制約されている 時だからこそ、人と人の関係 性をより深める仏の智慧に基 づくことが求められています。 私どもにかけられた仏の願い に共に立ち返ることを通して、 この難局を人間性喪失の迷路 ではなく、人間性回復の道へ の出発点としたいものであり ます。(中略)

不安の中にあっても、お一人 お一人が、掛けられた仏の願 いに立ち返って行かれること を心より念じ申し上げます。

2020年3月19日

真宗大谷派(東本願寺) 宗務総長 但馬 弘

緊急告知 第2組の行事 は中止です

池田英二郎副組長(宗恩寺) から連絡があり、以下の当面 の行事は全て中止になります。

5/23 第2組聞法会(法山寺) 6/13 第2組聞法会(西教寺) 5/26 日帰りツアー

相次ぐ新型コロナウイルス 感染拡大に伴う政府の緊急事態宣言が出ましたので、これ を受けて、残念ですが、第2 組行事は中止します。今後の 事業についても影響があると 思われます。会員の皆さんは、 体調管理に十分ご注意ください。(2面に新組長挨拶)

なお、夏の教務所長 巡回(光照寺) は8/21 に、第2組報恩講は11 /12(即應寺) を予定し ています。

石川武(紹隆寺門徒) さん入会です

紹隆寺の喜左上 恵子住職から紹介 の、聞法会や合同 行事で顔なじみの 石川武さん(写真) が、3/21付で入会い ただきました。これか



ら、共にお念仏の道を歩ませていたた きます。よろしくお願いします。

あゆみ通信 休筆します

次号から、当面「あゆみ 通信」を休筆させていただ きます。

皆さんにいろいろご心配 いただき感謝します。

ご存じの通り、新型コロナウイルス感染拡大がおさまらず、仏事が休止されていますので、残念ですが、しばらく生活を優先し、休筆します。ご容赦ください。

皆様の安寧とご自愛を心 より念じます(本)

我なくもおおきまし和 歌の浦 あをくさんのあ

らんかぎりは「御臨末の御書仏法に触れて、聞法を重ねていても、ややもすると他人の目を意識することがある。「どう見られているか」それは、善く見られたいという気持ちが根底にあるからであろうか。 東本願寺発行の「同朋新聞」にぴったりの記事を見つけた。 「同

朋新聞」4月号の川村妙慶さんの「ミカタがカワル〜ちょっと 視点をかえてみよう」から教わっ た。「我なくも法はつきまじ和 歌の浦 あをくさ人のあらんか ぎりは」(親鸞)

草は決して目立つこともなければ、この私を評価してほしいというアプローチもしません。ただひたすらに与えられた場で凛と生きています。それは「凡夫のままで生きよ」という親鸞聖人の呼びかけをいただいているかのようです。(川村妙慶)聞法第一。(本)

たた念ムして弥陀こたすけられまいらすべし

昨今の未曽有の新型コロナウイルス感染拡大に、世界が揺れ動いている。なすすべも無いかに見える不安のこの時にこそ、この言葉が浮かぶ。

宗祖親鸞聖人が、その師法然 上人からいただかれた言葉であ る。今こそ、この言葉の意味を 私たちがいただくことであろう。

本願寺中興の祖と言われる8 代蓮如上人の書かれた「御文」 に葬儀の際におなじみの「白骨 の御文」(5帖目第16通) があ る。

以下は、広瀬惺(たかし) 先生 (元同朋大学教授、大阪教区9 組妙輪寺住職)の「『御文』の 心=蓮如上人からの手紙=」 (東本願寺出版) 見てみよう (本)

弥陀をたのむ

「白骨の御文」は、人生の



廣瀬惺先生

無し本念つ生こさくいを状依申き開大えっ文との、しるく切てて

であります。ところで「御文」 には、たびたび「大無量寿経」 に果位として説かれています 「弥陀をたのむ」という表現 が出てきます。今も「阿弥陀 仏をふかくたのみまいらせて」 とあります。この表現は、親 **鸞聖人には見られないもので** す。聖人の場合は「弥陀をた のむ」ではなく、迷いや悩み を抱えて生きている私たちを 担い、私たちの「我れ」となっ て救いの世界を開いてくださ います因位法蔵菩薩の「本願 他力をたのむ」あるいは「誓 いをたのむ」とあります。こ のことをどのようにいただけ ばよいのでしょうか。

ともしますと、「御文」に

は「弥陀をたのむ」とあるこ とから、向こうに阿弥陀仏を 思い浮かべることによって救 われていこうとする、対照的 な信仰が説かれているように 受け取られることがあります。 しかしそうではなく、「御文」 は理解するものではなく、聴 くこと通していただくもので あるということがあるのでしょ う。その、特に大切な一語が 「弥陀をたのむ」であります。 「弥陀をたのむ」という表現 は、「御文」を「聴く」とい う姿勢でいただく私たちに対 して、「南無阿弥陀仏」と発 起する本願の信を成就してく ださる一語であるということ です。『帖外御文』(『五帖御 文』以外の「御文」)に、

「みなひとの本願をたのむと はいえども、さらにおもいい れて弥陀をたのむひとなきが ゆえに往生をとぐることまれ なり」

人々が本願をたのむとはいうけれども、さらに徹底して 弥陀をたのむ人がいないから、 往生を遂げることがまれなのです。

とあります。それは本願を対 照的にとらえたり、頭で理解 したりする人はいるけれども 「弥陀をたのむひと」、善しの思いを立場にして、る を心思いを立場にする仏」と を発起する人がいると とで生きる人がいるということです。

このことからしますなら、「御文」の「弥陀をたのむ」という表現は、「御文」をいただく私たち一人ひとりに本願の信を成就し、その本願が開く阿弥陀なる世界 (浄土)への方向をあらわしている言葉なのでしょう

真宗大谷派(東本願寺) 大阪教区 宗祖親鸞聖人750回御遠忌テー

いのち輝け!今、いのちがあなたを 生きている

第2組の 今後の事業について 第2組組長 墨林 浩

i 整 桜花舞い散 る季節ではございますが、各位におかれましては、この度の新型ウイルス問題で何かとご



心労のことと存じます。そのような中、4月1日付で第2組組長に寄しくも就任させていただきました。また、副組長には宗恩寺ご住職の池田英二郎様が就任されたことであります。まことに微力ではございますが各位のご協力のもとに役務にあたってまいりたいと存じます。何卒、よろしくお願いいたします。

さて、前組長時代から企画されております、第2組の事業・行事でございますが、ご承知のように新型コロナウイルス感染拡大予防について政府並びに大阪府におきまして、緊急事態宣言が発令されたことであります。 大阪教務所におきましても対応として事務所閉鎖がなされております。

つきましては、このような状況におきまして、第2組といたしまして4月21日開催予定の「第2組内会」を中止させていただき、6月末までの組主催の事業(別掲)につきましても正副組長並びに正副門徒会長様と協議の結果中止とさせていただきました。何卒ご理解のほどお願い申し上げ、お知らせ申し上げます。(中略)

なお、ご門徒各位におかれましては、聞法会はじめバスツアーなど楽しみにしておられたとは存じますが、何卒ご理解くださいますようお願いいたします。 まずは、取り急ぎ、お知らせとお願いまで。合掌。

(注) 墨林 浩新組長様から お知らせのあった文章を、ご紹 介させていただきます。

皆様には、くれぐれも体調管 理にご注意ください。(本)